

第2回

武蔵野市生きる力を育む幼児教育振興検討会議

日時：令和3年4月22日（木）

午後6時から午後7時30分まで

方法：オンライン会議

出席者：＜委員＞河邊委員、今福委員、加藤委員、平川委員、松井委員、

勝又子ども家庭部長、村松指導課長、

＜市・事務局＞吉田子ども育成課長、事務局2名

座長発言□、委員発言■、事務局発言○

開 会

1. 委員の交代について

○ 本会議の委員でありました境こども園の矢野園長先生の退職に伴い、同園の松井洋子新園長に委員の委嘱をいたします。

2. 資料の説明

【事務局より、配布資料について説明】

【委員より、資料3「武蔵野市立境南小学校における取り組み」を説明】

■ 境南小学校では、横浜市等の事例を参考にしたスタートカリキュラムに基づいた実践を行っており、進んで取り組んでいる事例として紹介させていただきました。

3. 「生きる力」を育む幼児教育に関するアンケートの結果について

○ 本アンケートにつきましては、本市の幼児教育の在り方について検討を行うための資料とするため、市内の幼稚園12園、認可保育所及び認定こども園計35園、公立小学校12校を対象に実施したものです。

回答率は、本日までに寄せられたものとして、幼稚園は75%、保育園・認定こども園は69%、小学校は83%でした。アンケートの項目は、幼稚園・保育園・認定こども園用と小学校用に分けており、幼稚園・保育園・認定こども園用では、「生きる力」を育む幼児教育についての考え方や取組、小学校教育との円滑な接続に向けた具体的な活動などについて伺い、また、小学校用では、「生きる力」を育むための幼児教育に期待することや、幼児教育との円滑な接続に向けた具体的な活動などについて伺っています。

アンケート結果について、まず、幼稚園・保育園・認定こども園の回答結果の自由記載

欄から傾向や特徴的な点を御紹介します。園の目標について、「安心して」という言葉が幾つかの園で共通して見られるとともに、「主体的に遊ぶ・活動する」、「意欲をもって行動する」、「自分で考える・感じる」といった内容を掲げる園が複数ありました。次に、子どもの「生きる力」を育むための幼児教育についての考え方について、「子どもが意欲的、主体的に物事に取り組めるよう、人的、物的な環境を整えることが重要」としている園が複数ありました。また、「一人ひとりを尊重し、その暮らしさを保障する」、「しっかりと遊びを楽しむことなどが自発性に基づく自律へとつながり、生きる力が育つ」、「自分を大切にし、人を大切にする感情が生きる力の基盤となる」といった記載もありました。

実践、取組について、「子どもの環境を整える」といったもののほかに、「その日の活動などを子どもたちが話し合っ決めて」、「保育士、教員が専門性を発揮できるよう研修を実施する」といった趣旨の記載がありました。

保護者の理解を得るための取組について、「保護者会や懇談会、連絡帳などを通して保護者とコミュニケーションを取っている」と回答した園が多数ありました。

幼児教育を実践するにあたっての課題について、「保育者の資質や専門性の向上」「一人ひとりの個性や発達段階に応じた環境、活動の設定」などが挙げられています。

小学校教育との円滑な接続に向けての近隣の小学校の児童との交流活動について、小学校への訪問、見学などが主な内容として記載されています。

小学校教育との円滑な接続に向けての近隣小学校との職員間の連携について、「開かれた学校づくり協議会」や小学校教員との学習会、交流会を通しての意見交換、保育要録の提出などが主な内容になっています。

幼児教育と小学校教育の円滑な接続を目指した連携を行う上での課題につきましては、子どもの育ちに関する共有、幼児教育と小学校教育での取り組み方や評価の仕方の違いの理解、意見交換や共同の学習の機会の設定などが挙げられています。

次に、小学校側の回答結果です。

幼児教育に期待していることについて、「たくさん遊び、体を動かし、人と関わること」が複数の小学校で記載されています。また、「好きなことや気になることに熱中し、試行錯誤することで、意欲、探求心、集中力といった非認知能力を身につけることを期待する」といった趣旨の回答もありました。

幼稚園・保育園・認定こども園の幼児との交流活動について、年長児童を1年生が招待

し、学校紹介を行っている」と回答した小学校が多数ありました。

教職員間の連携について、「園に直接訪問して話を聞く」、「情報交換を行う」といったほかにも、「授業参観をしてもらい、グループ協議を行う」、「教員が保育園で半日体験を行う」といった取組みも挙げられています。

幼児教育と小学校教育の円滑な接続を目指した連携を行う上での課題といたしましては、職員間の情報交換の時間や機会の確保、幼児の育ちに関する理解を深めるといった記載がありました。

交流活動や連携活動の頻度について選択肢を設けた設問について、回答割合をグラフにしています。

「小学校教育との円滑な接続に向けて近隣の小学校における児童と幼児と交流活動を行っているか」について、「定期的に行っている」「不定期に行っている」合わせて幼稚園では50%、保育園では35%程度となっています。

また、「小学校教育との円滑な接続に向けて近隣の小学校と職員間の意見交換など連携活動を行っているか」の問いに対する回答につきましては、幼稚園では、「定期的に行っている」「不定期に行っている」が50%、保育園では46%となっています。

これに対して、同様の設問に対する小学校側の回答につきましては、「定期的に行っている」及び「不定期に行っている」がいずれも合計して75%程度となっています。

これらのことから、幼稚園・保育園と小学校の連携、交流は行われているところではありますが、幼稚園・保育園での実施が一部の園にとどまっている状況も見てとれます。

4. アンケートの結果について意見交換

□ このアンケートについて自由に感じたことやお気づきになったことについて出し合いたいと思います。

■ 生きる力に対しての思いの温度差があるというのを感じています。また、保育園はこのところ数が増えてきている関係もあり、学校側としっかり連携をしている園がある一方、全ての園はできていません。小学校側も全ての地域の方と交流するのは難しいですし、近くの園の児童が必ず近くの小学校に行くわけではないということも課題として感じました。

■ 幼小連携について、配慮の必要なお子さんについての情報の提供や、学級編制における配慮事項等が非常にセンシティブな個人情報なので、取り扱いに苦慮しています。幼児

教育をどのように小学校の低学年の教育に生かしていただけるかというところにおいて、今後、どういう連携が望ましいのか、ぜひ、幼児教育の現場も学校の先生方にも見ていただきたいし、今回の会議で、一つのガイドのようなものができればいいと思いました。

□ 例えば境南小のような取組がどうやったら広がるのかとか、御意見はありますか。

■ やはりどれだけの園があるのかとか、あと、どのくらいの意識を持って子どもたちを迎えるのかというところ、その学校間の差なのかなと思っています。今回、小学校、全校協力していただきましたけれども、未回答の部分であるとか、交流についても市の実態が分かりましたので、課題として認識しています。

前回は研修であるとか、いろいろな機会を設定していかなければいけないという課題は出てくると思うので、今回の会議である程度方向性ができれば、次年度以降の施策になるかなとも思っていますし、各学校がどういうふうに取り組むをしていくのかというのは、お互いに見えていないと思います。

あとは、幼児教育、幼稚園・保育園での保育・教育をどう小学校に生かすかというところの視点というのは、まだ小学校の教員も受け止められていないところもあるのかなと思いますので、互いを知るところを何とか形にできないかと思っています。

就学支援シート等については、配慮が必要であったり、特性があったりするお子さん、また、保護者の意識として、保護者の立場からどうつなげていきたいかということだと思うので、やはり保護者との共通理解の中で伝えていく部分というところもあると思いますし、一人一人に限られているというところなので、園全体がどうであるとか、このシートだけでは伝え切れないというところが、幼児教育と小学校教育にどう伝えて結んでいくのかと感じております。

□ 幼児教育でやっている内容や幼児教育で子どもが積み重なった経験をどう小学校の低学年に生かしていくかというところについては、まだ十分なされてないと感じました。保育園やこども園での実際の実践を通してはどうですか。

■ 幼小の連携が子どもたちの1年生の生活に関係あると思ってくださっている方は、保育内容についてのお話もできたりすることもありましたし、ただの個別の情報交換に終わってしまうということも、今までの経験の中ではありました。

幼小の連携が形ばかりにならずに、小学校の教育と幼児の教育がつながっていくというふうに考えることが大事だと思います。個々の引継ぎということについてはまた別のレベルの問題で、教育内容をつないでいくというような発想で何ができるのかなということ

考えていくのが大事なのかなと感じています。

□ 例えば、園から子どもたちは何校の小学校に分かれていきますか。

■ 大体3校から4校ぐらい、メインは2校です。去年までいた前任園は、ほとんどが一つの学校へ進学する地域だったので、個々のこともどのレベルまでするか、時間取るのも難しかったですし、個別の引継ぎだけでも精いっぱい、時間的にも精いっぱいだったというところがあります。

■ 連携や共有というところで考えていくと、例えば保育要録でのつないでいくという中でも、学校が求めていたり着目している「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」というところと、武蔵野市の保育のガイドラインにもあるんですけども、保育所の園長先生たちが考えるところは、市の保育要録の裏に記載してあるように「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」だけにとらわれずに、子どもと関わって子どもの姿を見てほしいということがあり、その辺の保育、そういう気持ちをつないでいくというのは難しいと感じました。

■ 小学校の先生方はやはりいろいろな考え方があると思っていて、武蔵野市で、例えば幼小連携をしていく上でお互い目的をしっかりと理解するというか、目的を設定しておくというのが非常に大事だなと思っていて、そこがないと、なあなあになってしまうとか。今回も連携を行っていない小学校、園の報告もありますので、大事なことだということをしっかりと伝えていけたらいいのかなと思います。

アンケートを見ますと、保育園・幼稚園の園児さんと小学校の生徒さんが関わるということがありますので、どういう人たちがいるか、どういう場所なのかということをお互い園児・生徒同士がまず本人たちが知るということも非常に大事なことと思いました。

□ 内容の連携で、このスタートの過渡期の不安をどう解消するかということで、学校見学とか、給食体験とか、ちょっと進んで保護者の不安も解消するというのまでやっているところはあると思います。しかし、子どもたちの経験が、生きる力のための経験がどう学校につながっていくかというところがどうも薄そうだというのが何となく見えます。

幼児教育に期待していることは何かについて、何かお気づきの点はありますか。

■ 小学校の先生たちが、1年生が学校で生活を送っていくのに大事だと思っていることが態度や学習のルールなどではなく、一生懸命遊んで、体を使って健康な体で、集中できる子どもになってほしいということがアンケートから感じられます。先生たちも、そういう幼児期を望んでいるということを感じられるし、小学校の先生と個別にお話をすると、幼児期に、言葉がいっぱいしゃべれるとか、文字が書けるとか、静かに座っていられると

か、そういうことを望んでいるのではないんですとおっしゃっていて、一つのことに一生懸命取り組める子とか、夢中になって自分で探求していける子とか、友達と気持ちよく関わられるような子とか、そういう幼児期を本当に大事にしていると感じました。

■ 小学校の先生が求めていることが、具体的に5歳児ではどういう生活の姿として現れてきているのかということ、小学校の先生に把握していただくと、本当に上に乗せられる感じになると思っていました。

□ 保護者にも学校ではこういうことを期待していますよと伝えたい、保護者理解のために使えるデータだと思いました。

■ 学校に入ると教科学習が始まるので、その前にしっかりと遊んでほしいということ、伸び伸びとして遊んでほしいところが望むところと、なかなか思い切り遊べない子というのもあるけれど、小学校では校庭で思い切り遊べるような子になってほしい。そのような純粋な子たち、自分の気持ちをしっかりと表出できるような子が多くいるということが、学級自体も活気づく、その中で学習も活気づくというところもありながらの期待というところがあると感じました。

□ 幼児期にうんと遊び込むと、学びの構えみたいなものが育って、何かに夢中になるとか、集中するとか、人の意見を聞くとか、それが小学校に上がっても教科学習に生かされていくということ、学校の先生たちはもう実感なさっているということでしょうか。

■ そうですね。いろいろなものに興味を示すということが学習に向かう姿勢にもつながってくるということは、教員たち自身も実感として感じていると思います。

■ 生きる力というものを理解して、その素地というものをつけるということに期待されているというのが伝わってきました。5歳の姿として理解されるというところは、そういう部分もしっかり理解をしてくださるように小学校につなげていくというのは大事だなと思いました。

例えば、関わり方を学ぶとかというと、方法論というか、こういうときにはこうしましょうみたいに、「ありがとう」「ごめんね」「貸して」「入れて」とか、そういうルールみたいなところになっていたりして、齟齬のないようにつなげていければいいと思っています。

□ では、幼稚園や保育園が「生きる力」をどう考えているかというところについて、御意見をいただきたいと思います。

■ このアンケートは、一定程度上の方が答えていると思いますが、例えば園長だけでは

なく、やはりその子どもたちに実際に接する人たち、職員全体がしっかり共通認識していただいで進めていくことが非常に大事だと思っています。

□ 中心人物である人たちが、こういうビジョンをちゃんと持っているということが最も大事で、それがどうみんなに共有されているのかというのも、大事ということですよ。だから、園内研修とかがとても大事だと思いますが、そのことに触れている園が割と少ないです。

■ 園長が語る言葉と実態の保育に齟齬がないかということは、とても意識しています。

□ みんなが共有するために、どのような工夫を園の中ではなさっていますか。

■ 研修と研究は表裏一体なので、自分たちのテーマを持って、そのことについて幼児理解と絡めながら、幼児期における探求とは何かというのを、子どもたちの画像を定期的に持ち寄りながら、みんなで話し合っ言葉化していく、見える化していくとか、あるいは今、新入園だったら、新入園の子どもたちがどういうふうに先生等が配慮して接して幼稚園という場に慣れていくのかというのを、お互いに画像を取り合いながら、どんな配慮があるのかということ、保護者に動画などで説明しています。

■ 幼稚園のアンケートを見させていただいて、数は少ないですけども、生きる力というものを本当にどう捉えているのかというのが、園によってばらけていて、ここはしっかり共通認識を持つようにしていかなければならないなと思いました。

その上で、園長から保育者との共有という部分で、その生きる力に関するその子どもたちの意欲や興味関心に従った行動や、やり抜くこと、また、仲間と関わること、それが生活や遊びの場面を通してどのように育てていくのかというのを、それぞれの先生方が実際の子どもの姿から見つけていって、園内研修などで共有していくという仕組みづくりをすると、そういう先生方の意識というのも高まっていくのかなと思いました。

□ 共通認識を持たなければならないということ、この会議で方向性を提案できたらいいのではないかなと捉えてよいですか。

■ そういうものがあると、園もそれぞれ参考にしながら、保育方針を決める際などに生きていくと思います。

■ それぞれ園によって捉え方があるというところで、共有するのは難しいと思います。また、学校でもそれぞれ方針があり、幼児教育という視点でそろえて、みんなが理解し合っていくというところの難しさがあるのかなと感じました。

■ 私立の幼稚園というのは、それぞれの園の文化、多様性がある、その中から選べる

という強みがあると思いますが、一方で、勝手にやっていいわけではありません。教育要領に、あるいは保育指針にしても、こども園要領にしても、きちんと生きる力は位置づけられています。例えば市の長期計画は、きっと現場の先生たちは全く知らないし、子どもプラン武蔵野だって、身近ではない。今回、長期計画や子どもプラン武蔵野があって、そこからおろしてきて生きる力についてどうでしょうとなっていたので、現場にとってハードルが高いと思いました。

武蔵野市として共通の意識を持つということや、どこの辺では押さえられるのかというのは、すごく大事なポイントになると思います。だから、多様性を尊重することと、これは大事にしていこうということ、子どもの理解としては大事にしようよというところは、どこが一番接点があるのかということは会議で探すことができると思います。

□ 長い人生の中のスタートの時期としての乳幼児期に、一体どんな経験や生活が必要かということは揺るぎなくあると思います。それは発達の面から見ても、多分これだけは外せないというものがあると思います。そのことは、園によって理念や方法論が違ったとしても、押さえてもらいたいというのは出せるんじゃないでしょうか。

保育園では、園目標というのは立てているものなのでしょうか。

■ 保育園では園目標を立ててやっております。ポイントは、その園目標が、園長だけが分かっていることではなく、全職員に行き渡っているのか、目標を掲げているだけじゃなくて、実践的にはやっているのかということだと思います。

■ 全体的な園の目標というのはあると思いますが、例えばこの月の目標とか、それぞれの子どもの目標というのもなかなか難しいかもしれませんが、どのレベルで目標は立てているのでしょうか。

■ 個別に目標を立てるのは難しいです。目標を立てることによって、その目標を目指さなければならないという先が見えるということよりも、個人的には、その子が歩いていく道のりがどういうことなのかというところを重きに置いて、それが全体としての目標になってくるものだと感じています。

■ 今を積み重ねていって、その子がどのように育っていくかというのを見守るということでしょうか。

■ 一言で言うとその子に合ったというふうになってしまうくくりがあまり好きではありませんが、子どもが発信することには意味があると思うので、よく子どもたちを観察して、ポイントとなる部分を考えて、個々にも接していかなければならないということが重要だ

と思います。

■ 方向性というか、何かこう目標によって関わり方を変えていくというか、その方向性に向かった関わり方も一応していくということでしょうか。10の姿みたいに、例えばこうなしてほしいというものではなくとも、例えば思いやりがある子に育ててほしいっていう例ですと、相手の気持ちを思いやるような言葉かけをすとか、そのような接し方をしていくということでしょうか。

■ 自分の考えだと、子どもの目標は、足りないところを目標にして、そこに向かっていくという発想ではなく、ここが伸びていきそうところを重点的に伸ばしていく。そうすることで、目標というより、この子に重点を置いてこの子にこういうふうに関わっていきたいというようなものが先生としての目標になっていく保育、個別の目標になっていくのかなと思います。

月案などでクラスで、今年、今月、こういうことを大事にしていこうというものは、その前の月の子どもの姿を見ながら立てて、それに向かって保育をつくっていくことを理想としています。ただ、先ほどもありましたように、それぞれの担任や先生たちがそれをみんなが同じように思っているかというところは、まだまだ課題もあるかなと感じています。

□ 子どもの理解がとても大事なことはみんな重々分かるんですけど、その理解のまなざしの中に既にどんな保育をしたいかということが組み込まれてしまうので、例えばきっちり集団行動を取らせたいみたいな目標を持っていて、そういう保育理念を持ってれば、子どもの見方もその瞬間瞬間でそういう目で見ますよね。子どもの理解は重要だけど、どういうまなざしで見るとか、この先にどんなものを持ってくるかということ、大ざっぱでいいから提案しないといけないと思います。それがここでは生きる力なので、生きる力が身につくためには、何か自分に自信を持ってほしいとか、日々充実して過ごしてほしいとか、そういう目で子どもを見るということなんじゃないかなと思います。

■ 生きる力とは何かということを知って、それぞれの園が自園として生きる力というものはこういうことなんだということを、これはまさに園内研修でつくり上げていくことができ、それが結果として出てくる。子どもたちにそうなりなさいという命令じゃなくて、そういう姿が出てきたときにそれをどのように受け止めて共有するか。子ども同士や先生同士や保護者へ、あるいは行政の皆さんに、「こういう子どもの姿って、ほんと生きる力が育っているよね」というようなものになるのいいかなと思います。

■ 生きる力というのは、本当に普通の保育で見られることかなと思っています。こちらが用意してやるのではなくて、子どもたち自身がこれをやりたいとか、好奇心に従ってこうやりたいというのが出てきて、そういうのもまさに生きる力だなと感じるんですね。子どもたちは、日々主体的に活動していると思いますので、そういう場面をしっかりと見る、見守るという中で自然に育んでいけるものだという目を、保育者もしっかり見るというか、養っていくだけでも、日々の保育でいろいろ見えてくるのかなと感じました。

○ アンケート結果を見ながら感じたのは、やはり個々の園でいろいろな取り組み方だとか、考え方は異なってくるのかなとは思っているところです。ただ、そこまで全然違う方向を向いているわけでもないと思いました。また、幼稚園と保育園の傾向が随分異なってくるのかなと想像していましたが、必ずしも大きく離れたようなスタンスでもないと思ったところですので、ある程度幼児教育のベースというのを幼稚園・保育園でも共有できると感じたところです。

各園それぞれ取組が違いますが、アプローチはそれぞれあってもいいと思っています。それをお互いに共有する場を継続的に持つというプロセスを経ていくことで、幼児教育の質を担保して引き上げていくということが可能ではないかなと、今回のアンケート結果から読んでいます。

■ 生きる力を育むということですので、これまで、生きる力というのが遊びとか、生活の中で育まれるというお話がありまして、今回のアンケートを見ても、遊びを大事にしている園とかが多くあると思います。ただ遊べばいいとか、遊びをすればいいんだとかとならないように、遊びの中で何を見るのかとかいうことを伝えていくことも、生きる力を育むという目標を立てる上では大事だなと思いました。

■ どの園でも、生きる力を育むという大きなテーマには、目標とか考え方を持っていると思います。子どもたちが自発的に、主体的に何かをやるとか、動けるということは、どんな環境にあるのかということによって変わってくると思うので、物的環境、人的環境をどういうふうに整えるかがポイントになると思います。そのポイントが自園の根っこにして取り組むということにつながってくると感じました。

■ 各園で確実に共通している環境は人的環境ですね。先生としてというか、保育者としてのありようという意味では、よく言われるプロセスの資質というか、子ども同士や保育者との関係性や、ナショナルカリキュラムという共通理解の下で、武蔵野市の保育者としてのありようというところを、研修などを通じて丁寧に共通の理解を図っていく

ことがポイントだと思います。

□ 例えば人権尊重というのは人的環境の中で最も重要なことで、それから、子どもの育つ力に信頼を置くということも武蔵野市では大事にしていきたいことと思います。

■ 園内研修をどんなふうにも構築していくのか、一部の人間だけではなく園に定着していくプロセスのようなものがあるといいかなと思います。

■ やはり充実した遊びの中で子どもたちが育つということを心して保育をつくっていききたいなと思いますし、そのことを保護者も含めて、幼児期に大事なことで、市全体が考えていけるといいんだなと感じています。

■ 環境面では、園庭がないところで公園の活用を書いている保育園が多いので、遊びもいろいろな種類あると思いますけれども、各園がその目標に向かってどういう工夫をしながら、生活の環境というのをどのように担保していくかというのは、各園で状況が違うので工夫が必要です。

また、この認可でできた仕組みは、認可外も含めて、しっかり伝えていけるような形のものができるといいなと思っています。

環境構成の中で、子どもたちが遊びの中でどう育っていくかということについて、幼稚園の保育の様子を参観させていただいたときとかに、本当に綿密な保育の指導案をつくっていらっしゃる。本当に環境それぞれに、遊びの設定だとしても、昨日の育ちから、今日はここに興味を持ってどういうことに遊びに取り組むだろうということから、どう保育者が関わるかというあたりが本当に綿密に書かれているということは、すごく自分も学ぶべきところだったなと思います。これは中学校が小学校に学んでほしい、小学校は逆に幼稚園に学んでほしいと思うところです。

先ほどから出ているように、その環境を構成した中でどのようなものを期待できるかというか、子どもたちがどういう遊びに取り組むのかというあたりを保育者が見る。そこがその共通した生きる力の視点であるということが大事なかなと感じています。そういうところが共有されていくということと、小学校においても、そのような視点で子どもたちが育っているのを理解することが大事だということを感じました。

■ 子ども家庭支援センターの業務が増大しているなど、生きる力の手前の、愛着形成のことがとても気になっています。先ほど人権の問題とおっしゃっていただきましたが、本当にみんなで子どもたちを大事にしていけないといけない。乳児期から幼児期にかけて最も大事な部分なので、それをベースにしながら上に乗せていくというあたりもみんなで共

有できたらいいなと思いました。

■ もう本当に乳幼児の初期、乳児の段階の、愛着形成というところが基盤になってきて、人との関わりという場面で特にその愛着形成されないと、やっぱり積極的に関われないし、快感情が持てない。だから関わらないということになって、不快なイメージとか、概念として人が出来上がってしまうと、活動も変わってきてしまうので、その部分が基礎になって、その子の行動につながるのかと思いますので、非常に大事な部分だと思います。

□ それが特に乳幼児期に大事な経験ということですよ。

具体的な場面とつなげると、もっとはっきり見えてくるのではないかという話も出ていましたので、ここで議論は閉じさせていただきます。

閉 会